

## 4日の欧米株式市場などの下落について

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

4日の欧米市場では、投資家のリスク回避傾向の高まりから、株式相場は大幅下落となり、NYダウ工業株30種平均が、一時、取引時間中では昨年11月以来、約3か月ぶりの1万ドル割れとなったほか、ブラジル株式相場でもボベスパ指数が4.7%下落しました。また、為替市場では円が主要通貨に対して買われる展開となりました。加えて、5日のアジア株式相場も軟調な推移となっています。

この主な背景としては、①欧州の政府債務問題で、投資家の懸念がギリシャからポルトガルやスペインなどに広がったこと、②米国の週間新規失業保険申請件数が予想に反して増加したこと、などが挙げられます。

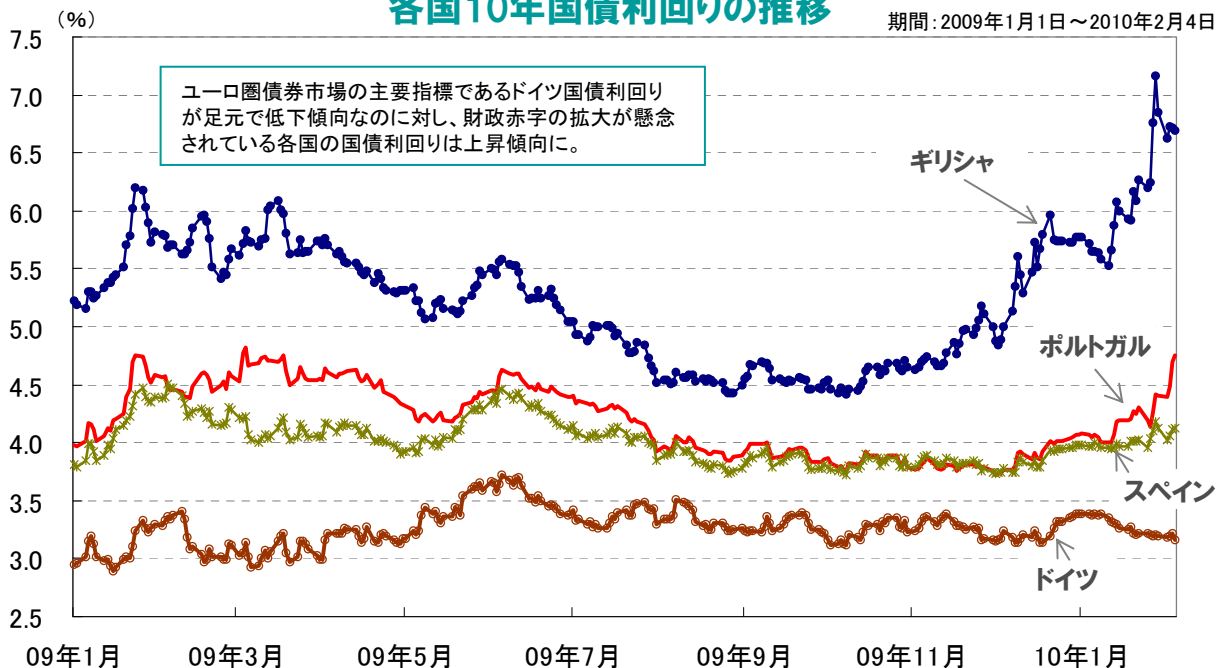
これまでも、南欧諸国の財政懸念はたびたび金融市場を揺るがす要因となっていました。そうした中、3日は、スペイン政府が2010-2012年の実質GDPに対する財政赤字見通しを引き上げ(悪化)したほか、ポルトガルの財務省証券(TB)発行額が当初の予定額よりも減額されたことにより、需要が低下しているのではないかと懸念が広がりました。さらに、トリシェECB総裁は、4日の理事会後、財政健全化策が「最重要の課題」との認識を示し、ユーロ圏の各国政府に財政再建に取り組むように強く要請したことから、ユーロ諸国の財政状態に対する懸念が金融市場で強く意識されました。

ただし、先に問題となっていたギリシャは、1月半ばに財政再建計画を発表、欧州連合(EU)の欧州委員会がその計画を支持すると表明するなど、財政健全化に向けて動き出しています。今後、各国が財政再建に向けてどのような取り組みをみせるのかが注視されます。

また、4日に発表された米国の週間新規失業保険申請件数が市場予想より多かったことで、米国の雇用の改善が遅れるとの見方が広がりました。今晚発表される1月の雇用統計で、雇用環境の改善が示されると期待されていただけに、こうした低調な経済指標が嫌気されました。しかし、米国の雇用指標はブレはあるものの改善傾向を維持しているとみられることから、単月で発表される数値だけではなく雇用環境全体のトレンドを見る必要があると見られます。

## 各国10年国債利回りの推移

期間:2009年1月1日~2010年2月4日



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成  
 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。